音　楽　よ　も　や　ま　話

株式会社　松本コンサルタント
宮　住　勝　彦　MIYAZUMI　KATSUHIKO
建　設　部　門

音楽が好きである。楽器の演奏は小学校で習ったハーモニカと縦笛ぐらいで全くダメだが、聞くのは大好きである。今回はその音楽の話をしてみたい。

私が本格的に音楽を聴きだしたのは、大学に入学した１９７２年(昭和47年)からである。このころは、ステレオがシステムコンポーネントに変わりつつあったころで、アンプ・プレーヤー・チューナー・スピーカー等が個別に買えて違うメーカーとの組み合わせが可能であった。各家電メーカーもオーディオに特化したブランドを立ち上げ、競争も激しかった。(例　日立：ローディ　三菱：ダイヤトーン　松下電器：テクニクス　東芝：オーレックスなど)

とはいえ、出力３０W クラスのアンプでも３～４万したので、学生がそう簡単に買える代物ではなかった。私もアルバイト代をコツコツと貯金して、まずアンプとプレーヤーを購入し、ヘッドフォンでレコードを聴いていた。その後、スピーカー、チューナー、カセットデッキと揃えていったのを覚えている。

特に、スピーカーは、住んでいる京都から大阪の日本橋にある電気街まで足を運び、定価 6 万円のブックシェルフ型スピーカーが現物限り半額という掘り出し物を見つけ、友達と一緒に下宿まで運んでもらった。何せ１本１０kg 以上もあるので、持って帰るのに苦労したが、このスピーカーは 40 数年たった今でも現役で、私の書斎できれいな音を奏でている。(ちなみにメーカーはオンキョー、１６センチのウーファー2 個と５センチのツイーター1 個の２ウェイ３スピーカーで当時としては珍しい設計であった)

音楽はジャズから歌謡曲まで何でも聴くのだが、特に好きなのはクラシック音楽である。
きっかけは同じ下宿にいた友達に誘われて聴きに行ったコンサートである。

京都交響楽団とバイオリニストのイツァーク・パールマンが共演したコンサートで曲目はメンデルスゾーンのバイオリン協奏曲であった。
それまであまりクラシック音楽は聴いたことがなかったのだが、このときに聴いたバイオリンの澄んだ音色に涙がでるほど感動した。パールマンはイスラエルの生まれで幼いころ小児マヒをわずらい足が不自由で、舞台に登場するとき指揮者がバイオリンと弓を持ち本人は松葉杖をついて登場したと記憶している。

それ以来、毎月クラシックのレコードを 1 枚ずつ購入してコレクションを増やしていった。今は CD が主流になっているが、レコード盤には CD にはない味があると思っている。

学生時代に揃えたオーディオセットのうち、ほとんどは最新のもの買い換えたが、プレーヤーもその当時のものを愛用している。このプレーヤーはクウォーツロック（水晶発振による回転ムラ制御方式）のダイレクトドライブが初めて発売になった時思い切って購入した DENON 製で、いまだに現役である。

クラシックの中ではベートーベンが一番好きで交響曲はレコードと CD の両方ですべて揃えている。中でもフルトヴェンクラー指揮の交響曲集が一番気に入っている。その他ではチャイコフスキー、ドヴォルザーク、モーツァルト等を良く聴く。

クラシック音楽の興味深いところは、同じ曲でも指揮者や楽団が変わると印象が変化する点である。ベートーベンの交響曲第５番（一般には「運命」と呼ばれている）を例にとると、ジョージ・セル指揮・クリーブランド管弦楽団とフルトヴェングラー指揮・ウィーンフィルハーモニーの演奏を比較するとテンポや強弱のつけ方が全くといっていいほど異なっている。これは指揮者の曲に対する解釈の違いからくるもので、いい悪いの問題ではない。（演奏時間でいうとクリーブランドは約３０分、ウィーンフィルは約３５分）

四国にいると一流の交響楽団の演奏を聴く機会がなかなかないが、NHK 交響楽団等が近くに来るときにはできるだけ聴きにいくようにしている。レコードや CD も手軽でいいが、やはり生の演奏にはかなわないと思う。

技術士会の会員の方でクラシック音楽がお好きな方はぜひご連絡ください。
クラシック音楽について語り合いましょう。